



浅井裕介 Yusuke Asai

1981年、東京都生まれ。絵描き。テープ、ペン、土、埃、葉っぱ、道路用白線素材など身の回りの素材を用いて、角砂糖の包み紙や紙ナプキンへのドローイング、泥や白線を使った巨大な壁画や地上絵のシリーズまで、あらゆる場所と共に奔放かつ執拗に絵画を制作する。「福岡アジア美術トリエンナーレ2009」(福岡アジア美術館)、「あいちトリエンナーレ2010」,2011年「水・火・大地 創造の源を求めて」(熊本県現代美術館)、「MOTコレクション 特別展示」浅井裕介(東京都現代美術館)等、多数の展覧会やプロジェクトに参加。VOCA2009大原美術館賞受賞。http://www.aratanianurano.com/artists/asai_yusuke/



栢田ちひろ Chihiro Kabata

1978年福岡県生まれ、東京都育ち。2004年武蔵野美術大学大学院修士、筆を使わず指と手で描いていく油彩画と、線を重ねていくボールペン画の双方を手掛ける。近作では鏡や水を使った作品も発表。主な個展に、2011年「目をあけたまま閉じる」(アートフロントギャラリー/東京)、「fear/flight/fleeing」(LASALLE College of Arts/シンガポール)、「『私』のゆくえ」(αMギャラリー/東京)、2010年「境界の先の光景」(遊工房アートスペース/東京)など。主なグループ展に2011年 MOTアニュアル2011「世界の深さのはかり方」(東京都現代美術館)などがある。http://chihiro.kabata.info/



あざみ野コンテンポラリー vol.2



いま「描く」ということ Azamino Contemporary vol.2 Viewpoints : Drawing & Painting

「あざみ野コンテンポラリー」は、美術という枠や社会的評価にとらわれず、さまざまなジャンルのアーティストが行っている表現活動に目を向けた、まさに現在進行形のアートを紹介するシリーズ展です。昨年に引き続き第2回目となる本展では、「描く」ことをテーマに、新進気鋭の若手アーティスト4名が新作を発表します。描く手を止めることなく自由奔放な線が画面を埋め尽くす浅井裕介、描くことで自らを振り起こす作業をくり返す栢田ちひろ、自身の記憶や思いをさぐるように不確かな心象風景を描く桑久保徹、自然の中に身を置いた経験を刻むように描きだす吉田夏奈。いずれも描く行為をとおして自らの感覚を丁寧に拾いだし、独自の世界をつくりだすアーティストです。彼らが世界をみつめる地点-Viewpointsに立ち、その線と色の先にあるものに思いをめぐらせてみてください。



桑久保徹 Toru Kuwakubo

1978年神奈川県生まれ、在住。2002年多摩美術大学絵画科油画専攻卒業。自分の中に架空の画家を見いだすという演劇的なアプローチで制作活動をスタートし、オイルを混ぜず油絵の具だけを厚く盛り上げる技法で心象風景を描きだす。主な個展に2010年「Out of Noise」(ギャラリー・ヒュンダイ/ソウル)、「海の話 画家の話」(トーキョーワンダーサイト渋谷/東京)など。主なグループ展に2011年「Reflections」(ford PROJECT/ニューヨーク)、2010年「アーティスト・ファイル 2010 現代の作家たち」(国立新美術館/東京)などがある。作品は高松市美術館、高橋コレクションなどに所蔵されている。http://tomikoyamagallery.com/artists/kuwakubo/



吉田夏奈 Kana Yoshida

1975年東京都生まれ、在住。2002年広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科卒業。登山により自然の中に身を置き、そこで感じたものと地形の構造をもとに、クレヨンによる独自の手法で、自分が経験した世界を描き出す。主な個展に2011年「Project N44 百目良奈展」(東京オペラシティアートギャラリー)、2010年「TWS Emerging 148」(トーキョーワンダーサイト/東京)など。2011年小豆島(香川)、2009年フィスカス(フィンランド)、2006年ロサンゼルスにてアーティスト・イン・レジデンスに参加。http://web.mac.com/knyshd/2009/kana_top.html



浅井裕介:「楳本 森街」2010年、109×79cm、紙にペン・マスキングテープ courtesy of ARATANIANURANO 撮影:渡邊都弘 / 「記憶・祝福のダンス」(部分)2011年、310×415×630cm、「ウォールアートフェスティバル・イン・ニランジャンスクール2011」(プダガヤ、インド)での展示風景 撮影:三村純二
栢田ちひろ:「不詳」(部分)2011年、90×90cm、紙・墨画 / 「事業の地平線」展 会場風景(新宿区資料館)2010年
吉田夏奈:「Beautiful Limit」(部分)2011年、60.5×91cm、パネル・紙・クレヨン・オイルパステル 撮影:早川聖一・田村邦彦 / Project N44「吉田夏奈展」会場風景(東京オペラシティアートギャラリー)2011年 撮影:早川聖一
桑久保徹:「よく着ていた栢色の服」2011年、162×194cm、油彩・キャンバス ©Toru Kuwakubo courtesy of Tomio Koyama Gallery / 「木の根をかぶる赤い画家」2010年、53×45.5cm、油彩・キャンバス ©Toru Kuwakubo courtesy of Tomio Koyama Gallery

●ワークショップ「好きな色★クレヨンづくり」

自然の中にあるいろいろな色を観察して、好きな色のクレヨンをつくります。できあがった色には自分だけの名前をつけます。
2012年2月11日(土・祝)13:00~15:30 / 会場:3階アトリエ / 対象・定員:小学5年生から大人まで20名程度(事前申込要、応募多数の場合抽選)
締切:1月28日(土)必着 / 参加費:無料 / 講師:吉田夏奈(本展出品作家)

●アーティストトーク 2012年2月4日(土) 15:00~ 浅井裕介、栢田ちひろ / 2012年2月12日(日) 15:00~ 桑久保徹、吉田夏奈 ※各回事前申込不要、参加無料

●担当学芸スタッフによるギャラリートーク 2012年2月18日(土) 15:00~ ※事前申込不要、参加無料

●アートなピクニックー視覚に障がいがある人と楽しむ鑑賞会ー

視覚に障がいがある人もない人も、共に見て語らいつつ展覧会を楽しみませんか?
2012年2月19日(日) 10:15~ / 対象・定員:視覚に障がいがある人10名、視覚に障がいのない人15名(事前申込要、応募多数の場合抽選) / 参加費:無料
締切:2012年2月4日(土) 必着 ※最寄りのあざみ野駅までお迎えが必要な方は申込時にご相談ください。

ワークショップ・鑑賞会のお申し込み方法

必要事項を明記の上、「往復はがき」「ホームページの申込フォーム」「直接来館(アートフォーラムあざみ野2階事務室)」のいずれかでお申込ください(宛先は表面参照)。
・ご家族で対象が該当する場合は連名でお申込いただけます。・複数のプログラムに参加ご希望の方は、お手数ですが別々にお申込ください。
・締切後、抽選結果にかかわらず、みなさまにご返信いたします。・提供された個人情報は今回の事業実施のためだけに使用し、その他の目的で使用することはありません。
【必要事項】ご希望のプログラム名 / 名前(ふりがな) / 住所 / 年齢が学年 / 電話番号・FAX番号 / 送迎の希望(鑑賞会参加者のみ)